

令和3年度第2回北海道立旭川美術館協議会 議事録

★旭川美術館協議会は、学識経験者、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、公募の委員で構成され、毎年度2回（通常は7月と2月）開催されます。美術館の活動について、館長に意見を述べることができる諮問機関です。委員の過半数の出席で成立します。

- 1 日 時 令和4年3月2日（水） 14:00～16:00
- 2 会 場 北海道立旭川美術館講堂
- 3 出席者数 協議会委員12名中9名出席 美術館職員7名（館長および正規職員）
- 4 出席委員 石前聖香、大石朋生（副会長）、小野田倫久、丹野佑理、福家尚（会長）、藤村好美、星秀隆、本間公浩、村中一徳 <敬称略50音順>
- 5 議 事 (1) 令和3年度（2021年度）事業の実施状況について
(2) 令和4年度（2022年度）事業の運営計画について
(3) その他

◎議事録（抄）

議事に入る前に館長挨拶を行い、その後、第1展示室「神田一明、日勝展」及び第2展示室「北海道の美術 1950-70年代」展を観覧
観覧後、会長の議事進行により、上記の議事について各委員に諮った。

<議事についての意見等>

- * 事務局より令和3年度の展覧会等の実施状況（美術館評価結果を含む）、令和4年度の事業予定等を説明（展覧会、教育普及活動については映像でも紹介）。事務局からの報告、説明に対して、美術館の役割に期待することや、今後このような取組をして欲しいというようなことについて、協議委員を通して意見や感想等を頂く。
- コロナの影響を受けて2年あまり。美術館は、教育普及活動での予約制、定員制、短時間での時間交代制など、出来る工夫をこらして、美術館に足を運んでもらっているのがわかる。学校教育活動にも様々な制限はあるが、子ども達と美術館に足を運ぶことも含め、子どもたちの豊かな心をはぐくめるように努めたい。
- 私自身展示作品を見る機会は沢山あるわけではないが、こういう機会をいろんな人が謳歌する、享受するという事が大事だと思う。学芸員の説明を受けて気づけることもあり、そういう事は自分の知識だけでは難しい。そこを美術館の方が裾野を広げるために活躍してと思う。次年度も頑張りたい。

- 会議の中で色々な意見が出てきたと思うが、形式的な会議にはせず、一つ一つ細かく拾って前向きに対応してもらえた。最近も展覧会を拝見し、来てる間も心地よく過ごせ、良くなっていると実感している。
- 常磐会は江口展からキャッシュレスを導入し、引き続き常設でも導入している。多くの方が買い物をしやすいように今後もキャッシュレスは継続していく。コロナの影響で喫茶も思うようにいかなかったが、4月からのトースト再開を検討するなど、前向きに進めている。
- 道北の美術の拠点、道北の作品を収集しているという事で、所蔵品でも違うものをみせてもらいたい。第2展示室に飾る点数が少ないが、面積的に限界なのだと思うので、4年度の作品展を見に行きたいと思う。

ホームページに次回の作品について出ていなかったが、年度替わりで載せられないということなのか。情報の更新はここでされるのか、業者に任せているのか気になった。
- コロナウィルスが広がって、職員が大変な思いの中で運営されていると感じている。そんな中でも入館者数が伸びたという事は、地域と繋がり、これをもっと進めていけば、入館者数はもっと増えていくのかと思う。自身が旭川の経済界に身を置く者として、今後も旭川美術館についてどんどん広めていきたい。また、館長にも会議で講演などをしてもらえれば、より皆さんに興味を持ってもらえると思う。
- コロナになった時に、文化、芸術、スポーツなんかは不要不急と言われていたが、今年の入館者数を見ても、そういう物の大切さに皆さん気づかれたのかと思う。立地条件のいい場所にこの美術館はあると思うので、中もそうだが、周りの雰囲気を含めてまだまだ多くの方を引き寄せられる美術館であると思う。
- いい内容の展示があるかどうかは美術館を支える一番の資源であるが、旭川美術館の良さとしては作品の中身がいつも暖かい。旭川美術館は、旭川、上川中心の作家を大事にしたり、コレクションも木を中心に集めたりしてる所からも地元を大事にしているのが見る事が出来て素晴らしいと思う。
- 実施状況の報告を見みて嬉しいと思ったのは、小中学生がこちらの方で作品展を見ているという事。子ども達の心を育てるという事が大事だと改めて思っている。